

# 地域連携 街中で学ぶ

## 八学大・短大「研究センター」

### 文化活動など機能移転 にぎわい創出に取り組む

八戸

八戸学院大・同短期大学「地域連携研究センター」(同センター長・大谷真樹同大学長)は、地域との連携を強めるため、同センターが行ってきた文化活動や企業や行政との連携事業などの一部機能を八戸市中心街に移転した。大谷学長が2日、同市十三日町にある移転先のフラワーエイトビルで会見し、「将来的には学生が街中で実践的に学べる仕組みをつくりたい」と抱負を語った。(樋渡慎弥)

移転先は同ビル3階フロア「八戸ニューポート」。同ビル「コミュニティ」(同市小中野)の創作活動支援拠点「アート&コ」からフロアの一面約33平方



【写真上】一部機能の移転先の「八戸ニューポート」を運営する類家社長(左)と八戸学院大の大谷学長(同右)八戸学院大・同短期大「地域連携研究センター」の一部機能の移転先となるフラワーエイトビル八戸市十三日町

貸を借り、1日から運営を始めた。

会見で大谷学長は、街中に拠点をつくる意義について「大学の授業を実践できるフィールドや学生が地域のリーダーと交流できる場にもなる」と説明。芸術文化事業の企画などを手掛けるアート&コミュニティと連携しながら地域の課題を探り、新たなにぎわい創出事業などに取り組む考えを示した。

同席した同社の類家敦社長は同大の街中拠点を活用しながら、将来的には同社などのインターンシップ(就業体験)を企画する考えも示し、「まちづくりや子育て支援事業にも発展させていきたい」と述べた。

同大はこれまで、市中心街にある八戸ポータルミュージアム「はっち」などで公開講座や起業家交流会を開いてきたが、地域とのさらに連携を強めるため、常設の拠点を設けることにした。

2002年4月に同市の

八戸商工会館にサテライト教室を開設したが、付属機関の機能強化の一環として、13年3月に閉鎖していた。